

令和6年度第2回八千代スポーツ推進審議会 会議録

1. 開催日時 令和7年1月28日（木）
14時00分開会 15時40分閉会
2. 場所 八千代市教育委員会庁舎1階 第1，2会議室
3. 出席者 ◇八千代市スポーツ推進審議会委員（計6名）
若松 竜二 会長
萩島 賢 副会長 森永 博幸 委員 豊永 直哉 委員
大賀 圭造 委員 田中 麻美子 委員
◇事務局（計6人）
教育長 嶺岸 秀一
教育次長 伊藤 栄治
文化・スポーツ課 課長 大野 光弘
主査 清宮 孝紀
主査補 石川 幸彦（進行）
主査補 大多和 信輝
4. 公開・非公開 公開
5. 傍聴人 0人（定員5人）
6. 会議要旨
 - （1）開会
 - （2）教育長挨拶
 - （3）委員及び事務局紹介
 - （4）議題 第3期八千代市スポーツ推進計画の策定について
 - （5）報告 (1)パリオリンピックへの本市出身選手の出場に係るパブリックビューイングの実施結果について
(2)有料公園施設の改修工事について
 - （6）閉会

(開会)

司会

それでは定刻になりましたので始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

ただ今より、令和6年度第2回八千代市スポーツ推進審議会を開催いたします。

それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

【教育長挨拶】

司会

まず、教育長、嶺岸より皆様にご挨拶を申し上げます。

(教育長挨拶)

皆様、こんにちは。教育長の嶺岸でございます。

本日は、お忙しい中、令和6年度第2回八千代市スポーツ推進審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、委員の皆様には、日頃より本市のスポーツ推進にご尽力いただき、改めて感謝を申し上げます。

本市におけるスポーツの推進につきましては、本市の最上位計画であります八千代市第5次総合計画において、将来のまちの姿として「スポーツ環境が整備され、市民の誰もがスポーツを楽しむことのできる、健康で活力に満ちたまち」を掲げておりまして、その実現に向け各種施策に取り組んでいるところです。

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の向上や精神的な充足感の獲得だけではなく、世代を超えた地域社会の交流や地域の活性化など、豊かな生活を送る上で数多くの役割を担っていると考えております。

また、本年は4年に一度のスポーツの祭典であるオリンピックという最高の舞台で本市出身の角田夏実選手、安楽宙斗選手をはじめ、多くの選手の活躍が日本中に勇気と感動を与えて

くれました。角田選手が「八千代市民栄誉賞特別賞」を、安楽選手が「八千代市民栄誉賞」を受賞したこともあり、市民のスポーツに対する興味関心が一層高まっております。

本日は、本市のスポーツ推進の基本的な考え方を示す「第2期八千代市スポーツ推進計画」が終期を迎えることに伴い、次期計画の策定に向けたご審議を行っていただくことになっております。

委員の皆様におかれましては、是非忌憚のないご意見をいただけますようお願いいたします。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

【委員及び事務局紹介】

司会

続きまして、本日出席の委員の皆さまと、事務局の紹介をさせていただきます。

初めに、若松会長でございます。萩島委員でございます。大賀委員でございます。

森永委員でございます。豊永委員でございます。田中委員でございます。

なお、平澤委員、中居委員、平川委員、木村委員におかれましては、所用のため、本日は欠席とのご連絡をいただいております。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

教育長 嶺岸でございます

教育次長 伊藤でございます。

文化・スポーツ課長 大野でございます。

文化・スポーツ課 スポーツ推進班主査 清宮でございます。

文化・スポーツ課 スポーツ推進班主査補 大多和でございます。

最後に、わたくしは本日の進行をさせていただきます文化・スポーツ課石川でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、このあと議事に入らせていただきますが教育長におきましては、公務のため、ここで失礼させていただきます。

それでは、議事に入ります前に、本日の資料の確認をさせていただきます。

本日の資料といたしまして

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ 座席表
- ・ 第3期八千代市スポーツ推進計画（素案）概要版
- ・ 第3期八千代市スポーツ推進計画
- ・ パリ 2024 オリンピック・パブリックビューイング開催結果
- ・ 八千代総合運動公園 配置図

以上でございますが、配布漏れ等ございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、議題に入りたいと思います。

議事進行につきましては、

「八千代市スポーツ推進審議会条例第5条」の規定により、会長が会議の議長を務めることになっております。

それでは若松会長、よろしくお願いいたします。

若松会長

それでは、議長を務めさせていただきます。

皆様の御協力をお願いいたします。

なお、本日の出席委員は6名であり、委員の半数に達しておりますので「八千代市スポーツ推進審議会条例第5条第2項」により、本日の会議は成立しております。

また本審議会は、「八千代市審議会等の公開に関する要領」の規定に基づき、会議を公開し

また、会議録作成のため、会議の音声を録音させていただきますので、予めご了承ください。

それでは、議題に入りたいと思います。

議題の「第3期八千代市スポーツ推進計画」となります。この議題につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

清宮主査

全体を一気に説明しますと質問内容が飛び飛びになってしまうと思いますので、3分割ぐらいにして説明し、それぞれご質問・ご意見を頂戴しようと考えております。

計画の位置づけですが、2ページをお開きください。まず、本市の教育委員会が行っている業務には多岐にわたりますが、特にスポーツ、生涯学習、学校教育については、教育の振興に取り組むうえで重要なものとして、それらを抱合し教育振興基本計画をその上位に位置付けており、教育の基本目標と施策の方向性をお示ししている計画ですので、今回の計画ではそれらを体系化しております。

次に、3ページの計画の期間です。今までは本市の最上位計画である総合計画に合わせて4計画とも4年間でしたが、次回は表の2行目の教育の上位計画である第4期千葉県教育振興基本計画が令和11年度で終了することから、令和12年より第5期の計画が始まることと思いますが、本市の教育振興計画を策定するうえで県の計画の中身を参考としないためには、1年間の猶予を見込んだうえで、令和12年度までといたします。

続いて、4ページのスポーツ環境をめぐる現状と課題です。前回の7月の第1回審議会の際にもアンケート結果のお話をしたところですが、前回ご出席されてない委員の方々もいらっしゃいますし、計画を策定するうえで、この分析は非常に重要なところですので、今一度、簡単にご説明したいと思います。

23ページの調査結果の概要にありますとおり、令和6年2月に、住民基本台帳から無作為に抽出した、18歳以上の市民3,500名にアンケートを発送いたしましたところ、1,127名の回答がありました。

回収率は32.2%で、令和2年度実施した前回調査が34.6%でしたので比較すると2.4ポイントの減少となりました。

それでは具体的な説明に移ります。まず資料の P 2 6 の間をご覧ください。

「問 5 あなたはスポーツや運動（ウォーキング、散歩、筋力トレーニングを含む）をどの程度行っていますか。」では、「ほとんど（またはまったく）やらない人」が前回調査では半数を占めておりましたが、今回の調査では 30.3%と減少し、この数年で体を動かすことへの意識が市民に根付いてきていることが伺えます。

「週に 1～2 回程度行う」、「週に 3～5 回程度行う」、「ほぼ毎日行う」、「月に 1～3 回程度行う」の順となっております。

スポーツ庁が国のスポーツ基本計画のなかで、目標値として挙げている週 1 回以上のスポーツ実施率について、本市の今回の調査では、58.4%となっており、スポーツ庁が昨年実施した世論調査（スポーツの実施状況等に関する世論調査）では、52.0%、で、本市のスポーツ実施率の向上が数値として表れております。

先程「問 5 あなたはスポーツをどの程度行っていますか。」では、「ほとんど（またはまったく）やらない人」が前回の半数から 30.3%と減りりましたが、依然としてその理由が、31 頁の「問 1 2 スポーツをほとんど（または全く）やらない理由を教えてください。」では、「忙しくて時間がとれないから」が 5 割弱と最も多く、これは、前回調査と同様の結果となっております。

しかしながら、「スポーツをほとんど（またはまったく）やらない」と回答した人でも、下段の問 1 3 をご覧いただくと「問 1 3 今後スポーツや運動を行いたいと思いますか。」では、「条件が合えば行いたい」と「今後行う」という回答を合わせると 7 割弱の方がスポーツに関心をもっていることから、忙しくて時間がとれない方にも気軽にできるスポーツ活動の体制づくりや環境づくりが今後の大きな課題の一つとなります。

続いて 2 7 頁に戻りますが、「問 6 あなたがスポーツや運動を行う主な理由を教えてください。」では、健康の維持や体力づくりのための 6 割と最も多く、次いで運動不足解消のため、趣味や生きがいのため、気晴らしやストレス発散のためとなっており、健康維持や体力づくりの割合が、20%も前回より増加しており、市民の健康志向がかなり高まっていると考え

られます。

また、29頁下段問9をご覧くださいと「あなたが行っているスポーツ種目を教えてください。」では、ウォーキングが36.3%と最も多く、次いで筋力トレーニング、ランニングとなっており、こちらも前回調査結果とほぼ同様の結果であるとともに、個人で気楽に自分の時間のある際に行えるスポーツが多い傾向となっており、ゴルフこそ6.6%ありますが、それ以外の球技などは低い結果となっております。

市民アンケートから浮かび上がる現状としまして、「忙しくて時間の取れない方にも気軽にできるスポーツ活動の体制づくり」が今後の課題の一つとなります。

続いて、「健康志向」の高まりから、今後市民の健康志向とスポーツ推進をどのように結びつけるかが課題となります。

最後に、団体スポーツや球技がコロナ渦を経験したためか減少している傾向があります。

今後、健康づくりをテーマにした体験型イベント等や球技などの団体向けのスポーツイベント等を更に充実させる必要があります。

以上で市民アンケート実施結果についての説明を終わらせていただきます。

ここまで一度区切って質問・ご意見を伺いたいと思います。委員長お願いいたします。

若松委員長

はい。ただいま事務局より説明がありましたが、委員の皆様の方からご意見なにかご質問ありますでしょうか。

森永委員

よろしいですか。前回から何回か申し上げてるんですけども、計画を立てられる、その趣旨は理解しています。ただ、着地がどこにあるのかなってというのが非常に見えにくい。

アンケート取っていただいて、スポーツやってるかやってないか、調べるのはいいんですけど、じゃあ、健康促進のためにスポーツやりましょうって言ったときに実施していくんで

あれば、その場をまず設けてある、ていうのがやっぱり重要なと思います。

我々総合型をやっているんですが、非常に認知度が低いです。

低いので、じゃあどうやったらいいのかなってということで、いろいろ体験会をね、小学校でやらしていただいたりするんですけど。

一昨年からですかね、学校の授業の一環として、ユニバーサルホッケーっていうのを、やらせてくれないかということで、1日やってるのもありましたし、そういうところで、100名近くの生徒さん教えたりとかっていうのもありました。

その中でやっぱり興味を持って来ていただけた方もいらっしゃいます。それがまず場を与えるってということかなと。去年は萱田小学校、それから今年入って、八千代台小学校、大和田小学校と増えており、今年はもうまた大和田小学校でお願いしたいときておりますので、その辺を含めてどんどん八千代市の学校で広めたいなっていうのが1つ。

それからもう1つは放課後の教室ということで、これは学校は直接関与しませんけれども、ユニバーサルホッケーの県協会が主となって、千葉市内の学校に支援しています。浦安の場合は、市の中で、体験会の開催ということで、ユニバーサルホッケーだけじゃなくていろんな競技を紹介して、多くの人を集めて行っております。

そういう圧倒的に八千代市としては、その体験できるというのが少ないんじゃないと僕は思ってまして、そういうところを作っていただいて、着地、スポーツ人口が増えてるよね、健康志向増えてるよねっていう経過であるかなと思ってるので、その辺のところを何とかもっと明確にしていけるとありがたい。

少しずついろんなところから声があって、できるようになってはいるんですけど、市が主体となって、例えば市民体育館が使えませんがね、でき上がった、市民体育館で行える競技を集めて、一斉にやるとかを考えていただけたらいいと思います。

ということで、計画とそれから目的、趣旨はわかってますけれど、着地はどこかっていうところを明確にして欲しいということです。以上です。

若松委員長

はい。他ございませんか。なければ、次、事務局よろしいですか。

清宮主査

続いて、内容の説明に入りたいと思います。表紙の次の頁をお開きください。目次があると思いますが、先ほどご説明したアンケート結果のとおり、大きな目標値の一つである「週1回以上のスポーツ実施率」の質問の回答結果について、前回調査時（令和元年度）の36.6%から、今回58.4%と大きく数字を伸ばし結果が出ていることから、第3期目となる本計画においても、これまでの理念や第3章の具体的取り組みである「スポーツ環境の整備」、「スポーツ施設の充実」の3本柱を大きく変更せずに継続するかたちをとっておりますので、新たに追加した箇所は第1章の第5節「社会情勢の変化」と第6節「本計画におけるスポーツ」のみとなっており、その他の体系・フレームは変更しておりません。その他の変更箇所としまして、第3章の具体的な取り組みにつきまして、赤い星のマークが三つあると思いますが、本計画は、社会情勢や市の現状を踏まえ、重点的・先導的に取り組むべき施策を特に三つ設定しています。

新たに追加した箇所の具体的説明ですが、5ページをお開きください。SDGs（持続可能な開発目標）は、平成27年9月の国連サミットで採択された国際目標ですが、17のゴールから構成され「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものです。

本計画は、SDGsが示す17のゴールの内、下段に1から17の表があるかと思いますが、「3 すべての人に健康と福祉を」、「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の目標達成に資する取り組みであるとともに、他のゴール・側面と合わせて、本計画においても、SDGsの理念を踏まえ、施策の展開を図っていく必要性を明記しております。

6ページをお開きください。先ほどのアンケート結果でありましたとおり、「忙しくて時間の取れない方にも気軽にできるスポーツ活動の体制づくりが今後の課題」でしたので、

本計画では、スポーツの概念を幅広く捉え、従来の「する」、「みる」、「ささえる」スポーツだけではなく、階段の昇り降りや、駅までの徒歩の移動、身近な場所・環境での散歩など、日常生活における身体活動を含むものとしても捉え、「スポーツ」という概念や活動を広く定義づけ、市民のだれもが楽しめるスポーツを推進していくことを新たに明記しました。従来の競技スポーツのイメージを幅広く捉え、これまでスポーツに縁のなかった人にも、気楽に楽しんでいただくことを目指します。

続いて、具体的な取り組みの変更箇所を説明していきます。先ほどお話ししたとおり、本計画は、各取組の中から、今後八千代市のスポーツ推進において、重点的・先導的に取り組むべき施策を三つ設定しましたが、一つ目として、11ページをお開きください。

競技力の向上現状ですが、令和6年度は4年に一度のスポーツの祭典であるオリンピックが、フランス・パリで開催され、本市出身の柔道女子48kg級角田夏実選手が本市初の金メダル、スポーツクライミング男子ボルダー&リード安楽宙斗選手が銀メダルを獲得する快挙を成し遂げました。両選手の全力のパフォーマンスは、世界中に感動を与え、人々のスポーツに対する意識が高まるとともに、「する」スポーツだけではなく、「観る」スポーツや「支える」スポーツといった様々な関わり方により、多様な人がスポーツに親しむ機会が増えました。このように、本市にゆかりのある選手が、全国大会や国際大会及びオリンピック・パラリンピックで活躍することは多くの市民に夢や感動を与えると同時に、スポーツへの関心・意欲を高めることにもつながりますので、メダリストやトップアスリートと子どもたちとの触れ合いの機会を創出し、スポーツへの関心を高める必要があります。

具体的な新規の施策につきまして、オリンピックメダリストをはじめ、民間企業との包括的連携協定を活用したトップアスリートによるスポーツ教室の開催に向けて調整を図ります。民間企業とは具体的に卓球選手の所属する日本生命やバスケットの千葉ジェッツがあげられます。その他、全国高等学校総合体育大会等出場補助金などのほか、次世代を担う子ども達のための支援制度を先進市の事例を参考に検討します。

14ページをお開きください。関係団体との連携についてお話しします。先ほどのアンケー

ト結果においても、個人でできるスポーツがふえている反面、競技スポーツの割合が減っている傾向にありますので、誰もが気楽にできるスポーツ活動ができるよう、今後も八千代市スポーツ協会、レクリエーション協会を始め様々な団体、また、施設を管理している地域振興財団等指定管理者と連携して、スポーツに縁のない人が気楽に立ち寄れるようなイベントも隣接する公園などを利用するなどし企画していきます。

アンケート結果では健康志向の割合が高かったことから、本市の健康づくり課が行っている「やちよ元気体操」をはじめ、地域振興財団が行う「健康体操教室」などを更に充実できるよう進めてまいります。また、総合グラウンドなどを中心に、現在行っている「わんぱく運動会」のように、お年寄りから子供まで幅広く参加できるような体験型のイベントを指定管理者と一緒に企画実施してまいります。

17ページをお開きください。スポーツ施設の管理運営についてです。最後のご報告でご説明いたしますが、現在、総合運動公園テニスコート8面の人工芝化改修工事、市民体育館の改修工事を今まさに進めているところです。

今後も利用者がより快適に施設を使用できるよう、老朽化した施設の改修について、市の他の計画との整合性を図りながら、対応してまいります。また、市民体育館の使用料の見直しも同時に進めてまいります。

以上で具体的施策や今後の取組の変更箇所の説明を終わらせていただきます。ここまで、また、一度区切って質問・ご意見を伺いたいと思います。委員長お願いいたします。

若松委員長

ただ今説明いただきましたけども、具体的な取組に関してご質問、ご意見ございませんか。

萩島委員

今お話いただいたところで、幾つか関連するところでお話をさせていただけたらと思いますけれども、関係団体との連携のところ、先ほど健康づくり課のお話出てきましたけれども、

まさに今私がさっき言った健康運動教室の講師をやらせていただいております、今週金曜日もあるんですけども、今、定員 18 名で、大体来られるのが 40 代から 70 代ぐらいまでの男性女性、ただ、男性の方に関しましてはおそらく、もうお仕事をリタイアされて、時間が比較的余裕がある方だけが参加されて、あとは基本的には専業主婦の方、それから 60 歳以上の方っていう方がほとんど参加をされるんですけども、その講座の名前が「ゆるトレ」、「ながらトレ」っていう講座で、ゆるいトレーニングから運動習慣がない人でも始められるような、内容であったりとか、あとは「ながらトレ」って僕が考えたんですけど、しながら、テレビを見ながら、それから一家事をしながら、できるようなトレーニングを考案をして、お伝えしてるんですけども、大体皆さん、そうですね。本当に簡単なトレーニングではあるんですがなかなか、ご自身で体を支えられない方もやはり多くて、おそらく今のこういった計画の中でもそういった運動習慣のない方を運動する方向に持っていくということで、健康づくり課の方でも僕とも、いろいろやらせていただけてるんですけど、なかなかそうですね新しいプログラムとして、今までは 1 回限りの講座だったんですけども、今は計 2 回講座にして、なか 2 週間あけてですね、どのように運動プログラムをするか組んでいただいて、2 週間後にそれを持ってきていただいて、2 週間の間何回運動ができたのか、それからどういったことに取り組めたのか、それからそれで運動習慣で自分の方で見に行きそうなのか、そういったことを持ってきていただいて、その場でミーティングをしていただいて、意見交換をしていただくなんてことを今やってるんですけども。

はたしてそれがその後どういうふうに繋がっていくかまでは、なかなか把握できないので、難しい部分ではあるんですが、私はそこを担当させていただいて思うことは、やっぱり若いころから運動習慣を持ってる方が比較的、すべて来決めつけることはできないですけど比較的、成人になられても、それからお年を召されてもう、運動習慣をお持ちの方が多いいんじゃないかなっていう思いがすごくあるんですよ。

そういう中で少し戻って社会情勢の変化というところで、今私が関わってるところでいろいろ意見を聞いているところがあるんですけども、やっぱりその、若い世代のうちのその運

動習慣というところが、もちろん大人になってから運動習慣というところに繋がるというふうに考えると、やはりジュニアの世代にどうやって、スポーツをやっぱり取り組んでもらえるかっていうこともやっぱりこの計画に、かなり踏み込んでいかないといけないんじゃないかなってのは私もすごく思っていて、ていうのも、部活動ですね、皆さん教育委員会の方なので、部活動がこれから地域に移行するなんて話も出てきてる中で、皆さんが具体的にどこまでお話を存じ上げてるかよくわからないんですけど、僕の方で聞いているところでは例えばある、千葉市の中学校に関しては、完全に部活動閉鎖する学校も来年からある、私今陸上クラブ運営してるんですけども、陸上部がようは来年なくなるから、1年生までだったらやっていいけど、2年生から陸上部なくなるけどそれでも入るってというようなことを、1年生の入学時に言われたとていうようなことも実際あって、陸上もなくなっちゃうんだったら、じゃあ他の部活動やりながら、陸上はうちでやるっていう選択肢として選ばれてる方もいますし、こないだ、その陸上ライセンスの研修に行ったとき、隣の松戸市の先生が同じいらっしゃったんですけども、松戸市もかなりの学校で部活動廃止の方向に持って行って、もうスポーツ、何を残すか、要はメジャーなスポーツを、何を残していくかっていう選択に入っていて、やっぱり子供が取り組みやすいものっていう中で、陸上は外せないんだけど、僕のところはどういうふうに運営してるのかちょっと聞いてみたらという先生もいらっしゃいましたし、いろんな形で、そういう活動が、おそらく廃止、それから縮小の方向に向かっていくことは、時代の、もうまさに情勢の変化の中で、拭えないところだと思うんですけどもそういった部分で、民間とももちろんやっぱり各種関係団体との連携ってのもあるんですけども、例えばですね僕が、これから八千代市が民間の団体に部活動を移行する中で、陸上制度をうちでこっそり預かって面倒見られますかといったときに、絶対にみれないです、絶対にみれないです、なので、その先々までどういうふうに、ジュニアが、部活動やめちゃったら、スポーツやめちゃうと駄目なんですよ、その部分でこの計画までその社会情勢に触れた上で盛り込んでおかないと、予算を例えば考えておかないと、部活動が廃止、縮小になったときに、そのジュニアの子供たちが路頭にその前のようなことがないようなところま

で、その部活動も含めた学校との連携も含めたところで、計画を策定されるといいのかなというふうに思ったので意見させていただきました。以上です。

大野課長

その件につきましては、学校との連携のことについて今回の計画の中に盛り込んでおります。

清宮主査

12 ページのスポーツ指導者の育成のところなんですけども、上から 5 行目の「市民の健康意識の高まりや学校の部活動との連携」と明記しております。

先ほど地域部活動の連携についてはですね、教育委員会の保健体育課だというところがやっておるんですけども、そのページの下段米印のところですね、下から 3 行目ですね注釈を言ってるんですけども、まだ正確に何年後するっていうのは決まっていないんですが、今後も学校の方と連携してまいります。

萩原委員

現場をぜひ見ていただきたいなというか、もう、どういうふうにクラブが運営しているのかとか、といった形でやってるのかっていうのを見ていただいた上でどういうふうな連携方法があるかっていうことも、手直し先立つものがなければ我々も受け入れられない部分がありますので、そういった部分でどうしていくかということも含めてご検討いただければと思います。

若松委員長

その他いかがですか。

大賀委員

今お話にそのまま直結です私も陸上を専門としておりまして、昨年、地域移行とか部活動の地域移行ということで、途中まで八千代市の中学校の部活動に、1回だけ秀明大学で受け入れるという話が実はありました。

ただ、それが夏過ぎたので、予算の関係で、なくなったわけですが、今話は止まっている状態です。

実際に、ちょうど昨日、千葉市の方から大学の方に、学生の指導者の募集ということで、QRコードから学生の登録をして、各学校と面談して、それで大学生が指導者をしているというのが千葉市の方では、今は行われているようです。ですのうちの学生も、そこに登録をして、専門の部活教えるものもあれば、行きなさいというところでちょっとちょうど指導したばかりでした。

なので、中学校部活動がなくなっていくっていうのも現実的にどんどん進んでいるわけなので、あんまり言うちょなことを言っている暇はない。正直言って、でないと困るのは、現場なんですね。今おっしゃったように、現場の教員もそうですけども、やっぱり、今ジュニア、中学生って一番体を動かさなければいけない世代の運動する場所がなくなってしまう、学校としてはもう、どうしようもない。で現場のクラブチームじゃお願いしますといったときに、クラブチームで全部うけることは絶対できません、なので、そのあたり、予算の関係は絶対あるので先立つものがなければっていうのが出てくるとは思います、もうたまたま陸上の話があったんですけども別に陸上だけではなく、野球もサッカー、バスケット、バレーもいろんな形で、たぶんどの地域も課題を抱えていると思うんです。

ですので、やっぱりこれについては、早めに手をうっておっていかないと、多分、急に本当に全部、今みたいに、中1まではできるけど中2からはできませんよって言われたら、子供たちはどうすんの、お金がない人は運動しちゃいけないとか、例えばそういう問題も今出てきてるのは事実だと思いますし、その辺りはやっぱり、市の教育委員会もそうだし県の教育委員会もそうだし、そこと地域の連携っていうのを、本当に上手くやっていく、早めにやっていく、話し合いをしていかないと、もう手遅れになるっていうのは感じています。

なので一番手っ取り早いのはそのクラブあとは地域にある大学、あとは学校との連携、もうこれはもう早急にやるっていうところ、あと話をやっぱり聞いていくと、教えたくない先生が多いわけじゃないんですよ。半分以上やりたいです。

ただ、やりたくないのにやらされてるっていう先生がすごくクローズアップされていたので、そこだけを見てしまうと、やっぱり本当にやりたくてやっていて生徒のために一生懸命やっている先生方が、やっぱり報われない。

やりたい人と、地域、あとはクラブ、大学、教育委員会っていうところがやっぱり、きちんととまらなければいけないと思います。

なので、そこをどうするのかっていうのを、保健体育課の方とも少しお話をしたんですけど、例えば予算関係でっていう話で話が流れちゃう、だからそんな流れないように進めていければと私は思って地域移行ですけど、これを見た段階で、やっぱり指導者の育成とかではなくて、主にいるんですよ。各種競技を教えられる教員とこれから入ってくる教員だっていると思います。だから、育成じゃなくて、多分これはどうやってやっていくかというのはその場所をどうするか、ていうことを、もうこれから子供たちは減っていく一方ですから、その中で、どうやってこの子たちを運動させていこうかなっていうのを真剣に考えていかなければならないとそう感じています

ぜひ、ちょっとそのあたりですね、たまたま去年、そういう地域移行とお話をいただいて、その話を進めたところにもちょっと加わったので、今回そういう話が、こういう話が出てきているようであれば、やっぱり、きちんと八千代市としてはやっていかなければいけない。またモデルケースとして、どっかがやると、多分そこに流れていくと思うんですよ。

ただそのモデルケースをやるためにも、予算というのは離せない、ここが一番問題だと思うんで、今までもそういうところの連携は、ぜひそういう検討はしていただければと思います。

若松委員長

じゃあ事務局よろしいですか。要望ということで、そう簡単にいかないとは思いますが、よろ

しくお願いいたします。その他いかがですか。

田中委員。

今、関わってくるのかわからないんですけど有志でやっている同好会についてなんですけど、アンケート結果どっちかっていうと皆さんゴルフとか打ちっぱなしなら一人でできると思うんですけど、筋トレとかウォーキングだとかその1人でやるっていうが、どっちかっていうと多くなってしまうかと思うんですけど、この、SDGsにそってとかっていうのも素晴らしかったんですけど、どっちかっていうとやっぱり個人でやっていくような、ところが多く書かれていて、同好会の方にお子さんが来たりとかもするので、その活動の場所としてお子さんがこれからも来るっていうことが、もうあるかと思うんですけど、意見っていうか、現状を知っていただきたいところで、年配の方が非常に多くて12月から来て、倒れられる方がすごく頻発してまして、救急車を呼んでっていうのが毎週になったりするでいい、来てもらうときに保険証のコピーを持ってきてもらってだとか、必ず出席確認を事前にラインでグループLINEでしたりとかっていうのをすごいするようになって、今、役員をやる方も皆さんやりたがらないし、ただ新規やりたいっていう人はもう非常に多くて、一定の人数以上入られるとちょっともう、もう募集停止とかになっているんですけど、非常に役員、運動する側が何か運動しにきたいのに、そういうことの対応をしたりとかっていうので、大変になっていて、ところがあって、それでも皆さんでやっていかなければいけないんですけど、そういうところにちょっとこうなんだろう、市で何をしてもらえるかっていうのはわからないんですけど、例えば1つにそういう学生で教えてもらえる方が派遣されてとかそういうもう1つ、何か役割分担でできることだったりとかすると思うんですけど、そういう有志の同好会のところの結構運営が非常に大変になってきてるっていう、まわしていく人がすごく足りなくて困ってるっていうことも何か知っていただいて、何かそういう手だてみたいなのがあれば、入れていただければなという要望です。以上です。

若松委員長

今の件については、よろしいですか。具体定期的に救急車を呼ぶことが結構あるんですか。

田中委員

はいあります。それで結構健康不安で、もうやめちゃう人もいたりですね。

若松委員長

事務局続いていきますか。

清宮主査

最後に19ページの目標値の設定の説明をしたいと思います。

「週1回以上のスポーツ実施率」についてですが、令和元年度の36.6%のところ 令和5年度は58.4%かと21.8%上昇しております。

分析すると、令和2年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、自宅待機、テレワークなどをする人が増えたことにより、どちらかというと団体などでバスケットを集まって球技をしたりすることができなくなったため、個人で皆さんが自宅で簡単な運動をする人が増えたためと分析しております。

前回の数値では令和元年度から令和6年度までで毎年4%上昇している計算となります。

今後も4%ずつ増える見込みはありませんので、オリンピックのメダリストが出たことによるスポーツ熱の高まりも考慮し、毎年2%ほど増加すると想定しております。

続いて、「スポーツ推進委員依頼受講者数」についてですが、今回は、講座数が指標でしたが、指標としてより適切に達成度が図れるよう今後は講座の受講者数で設定しました。

講座数はかわらないが、令和元年から令和5年度の4年間、途中コロナにより開催が中止されることもあったが、4年間で56人増加しておりますので1年間でおおよそ14人増えています。今後も毎年15人ふえると想定して1,230と設定しております。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度以降数値が伸び悩んでいますが、総合運動公園のテニスコートの8面人工芝化や市民体育館改修工事もあるため、希望的観測を含め、あくまで目標値ですので、今後2,500人ぐらいは年間増加すると想定し、75万人を設定しております。令和5年度の施設の稼働率 市民体育館 主体育室 88% 柔道場 66% 庭球場総合運動公園 70% 総合グラウンド 66.6%ですので、まだ、数値的には延びる可能性はあると考えております。なお、いずれも目標年限が令和12年と計画期間が6年と長いため、数値については途中、必要に応じて見直しができるものとします。以上で指標及び数値の説明を終わらせていただきます。委員長お願いいたします。

若松委員長

事務局から目標値の設定指標の説明がありました。そしてまた、全体を通して、委員の皆様から何かご意見、ご質問ありますか。

萩島委員

ものの考え方として、もちろん我が市でオリンピックメダリストがでて、大変喜ばしいことですし、素晴らしいことなんですけれども、それをもってして、スポーツの人口が増えるっていうふうな形で結論づけるのはちょっと僕は違うかなと思っていて、例えば、角田夏美選手に関して言えば、まず女子柔道というスポーツの世界でいうと少し認知があるかなと僕は思っていて、では僕の周りで、小学生の女子いっぱい教えていますけども、その中で柔道をやりたくなりましたっていう子は正直いません。

それで安楽選手もそうですけどもクライミングをやりたいっていう選手は1人もいないです。それがそもそもスポーツ人口増加に直結するっていう考え方が少しまず違うっていうところが1つ。

それから逆に言うと、もっとそのオリンピックだったら、今、ニューリバーロードレース関わらせていただきますけれども、田中智美選手を呼んで日本代表でしたけども、結構市民の

方って薄情ですので、忘れるんですよ、結構そういうことって。

鉄はうちじゃないですけど、本当熱いうちにそのオリンピックでメダリストの方々をどういうふうに活用するのかっていうことが僕は大事だと思います。

選手に来てもらって、かけっこしてもらってもいいと思うんですよ、専門じゃなくて、そういう場をいち早くつくって、それこそが僕は活用方法だと思っていてそこに時間をかけてしまったら、田中選手を覚えている方ももちろんいらっしゃいましたけども、やっぱり忘れての方がほとんどです。紅白に新浜レオンという演歌歌手が出ましたけれど、彼は千葉英和高校の野球部なんですよ、だからそういう関連を調べれば、どんな形からでもスポーツに関わってる方が、新浜レオンさんが子供たちと野球やったっていいと思うんですよ、そうすればお母さんたちも来るんで、そうするとそのやっぱりそういった場をどういうふうに設定していくか、どういうふうに盛り上げてスポーツの機運を高めていくかっていうことも、この目標設定の中に数字としてはなかなか表しづらいかもしれませんが、より具体的に落とし込んでいって、そのスポーツに関わる人を増やしていくっていう施策をもっともっと打ち出していけないと、本当にさっき大賀先生おっしゃってましたけど、スポーツに関する人口減少も待ったなしだと思うので、そこに関しては本当にいち早い、そういったオリンピックの方々もいらっしゃるんであればなおさらそういった方々の力もかりながら、スピーディーに、取り組んでいけるような施策をもっと組んでいくことが必要かなと、お聞きして思いました。

若松委員長

他にありますか。

大賀委員

うちの秀明大学からもう、オリンピック選手出ましたけど、それで、水球人口が増えるかっていうと増えているわけではない。今おっしゃったように、鉄は熱いうちに打てではないですけども、メジャースポーツとマイナースポーツありますけども、言い方悪いんですけど、

ここでは明らかに人口の差が出ていると思います。だからそれをどうやって増やしていくの
かって言うことをやっぱり考えますと、確かにオリンピックのときには、どんと出ますけど
もそれではなかなかメジャーになりにくい。八千代市でそういった選手がいるのであれば、
やっぱりそこをうまく利用しないと、そうするとお互い柔道会もそうだし、クライミングも
そうだし、水球に関わったことができる、競技人口をどうやって確保するかって言ったらそ
れはやっぱりジュニアなんですよ。

小学生だって中学生だってそれを広げることによって僕は私はやってみようっていうそこを
まずやっていかないと、スポーツをするっていう人が絶対増えていかないと。

そのあたりは、私も含めてうまく利用していただければいいのかなと思います。以上です。

石川主査補

教育等をやるために、民間企業と包括連携協定を結んでいます。先ほど清宮の方からも説
明がありましたとおり、日本生命さんなどと協定を結んでいまして、そういった企業さん
との協定の中で、スポーツ事業をやるということができる、なかなか市の方でも予算確保が難
しいところがございますので、そういった民間の企業さんとの協定の中で、トップアスリー
トを呼んだ教室をですね、今後もやっていきたい、令和4年はですね、千葉ジェッツとバ
スケットボール教室なんかやっているような実績もございますので、今後はより積極的にで
すね、そういったものを活用して、スポーツ事業をやっていきたいと考えております。

若松委員長

はいありがとうございます。他に何かありますか。豊永委員どうですか。

豊永委員

先ほどから話を聞いていて、スポーツをする上でやっぱりいろいろと難しいことたくさんあ
ると思ったんですけども、やっぱり小さい頃からスポーツをしていると、継続してる人が多

いという話を聞いたりすると、やっぱりその最初の機会の設定っていうのもやっぱりすごく重要だなと思っていて、その中で、これだけ多様化している中でやっぱり幾つも仕掛けを作っておかないと、やっぱり人口が増えてこないっていうのを感じたので、やっぱりそのあたりで民間の団体の特異な部分と、あと行政の得意な部分があると思いますので、その辺をうまくコラボさせることで、人口が増えたり、こういった資源が発生しやすくなるのかなと思いましたので、やっぱり得意分野をやっぱり持ち寄って、連携するっていうことの大切さは、ちょっと今、今日のお話ですごく感じたので、その辺り、実現に向けて、具体化していけたらいいんじゃないかなと、そういう風に思いました。

若松委員長

特に障害者スポーツという観点ではよろしいですか。

豊永委員

そうですね。やっぱり少子化と同じで障がい者も少数なので、特に例えばスポーツに参加するっていうのは皆さんと一緒にやるっていうところが理想系としてはあるので、その中で一緒にするためには当然工夫をしたりとかっていうことがやっぱり出てくるんで、やっぱりまずは当事者自身が積極的に参加をするっていう、そのスタンスがないとやっぱりすごく難しいんで、やっぱりポジションっていうのは結構こだわる方結構いらっしゃるんで、その辺りも結構簡単にいかないかなということは感じているところです。

若松委員長

ちなみに、ある方と話してたら、障害者の方は移動が大変だということを耳にしました。施設はあるけれども、アクセス、誰かの手をかりたいんだけども言えないっていう、そんな影響もあって、そういうアクセスなども考えていかなければいけない、そういうことも感じました。

【5 報告】

若松委員長

それでは続きまして、報告事項の（１）「パリオリンピックへの本市出身選手の出場に係るパブリックビューイングの実施について」となります。

この議題につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

清宮主査

パリ 2024 オリンピックパブリックビューイングについて、ご報告いたします。

7月26日から8月11日の期間に開催されたパリ 2024 オリンピックに出場する、本市出身選手を多くの市民の皆様と応援できるよう、八千代市市民会館及びイオンモール八千代緑が丘の2会場にて、パブリックビューイングを開催いたしました。

7月27日に開催した柔道女子48kg級角田夏実選手につきましては、午後5時から競技が始まり、0時56分から開始された決勝では、巴投げで技ありを奪い、優勢勝ちを収め、今大会日本勢第1号の金メダルを獲得しました。

決勝の際には、深夜にもかかわらず両会場合せて約500人が応援に駆けつけ試合を観戦いたしました。

また、8月9日に開催のスポーツライミング男子ボルダー&リード決勝に進出した安楽宙斗選手につきましては、午後5時15分から競技が始まり、リードの決勝の際には両会場合せて約780人が応援に駆けつけました。ボルダーで69.3点、リードで76.1点の合計145.4点で、銀メダルを獲得しました。

本イベント開催にあたりましては、教育委員会やシティプロモーション課の職員など両日合せて95人が従事したことにより、円滑に運営することができ、トラブルや事故等はなく無事に終了することができました。

私からの報告は以上となります。

若松委員長

はい。ありがとうございます。ただいま、パブリックビューイングについて説明ありました。よろしいでしょうか。それでは次の報告事項施設の改修工事について説明をお願いします。

清宮主査

市民体育館の改修工事の経緯からご説明します。

八千代総合運動公園市民体育館は建設から 40 年余りが経過しており、老朽化が顕著であることから、市民体育館利用者の安心・安全や利便性の向上を図るため、現在、既存不適格の状態である「特定天井」の撤去を主な目的とし、併せて施設・設備の老朽化対応及びアスベスト対策として体育館の改修工事を実施しております。

主な工事内容は、特定天井対策、主体育室屋根、内装改修、主体育室天井・弓道場及び武道場のアスベスト対策、エレベーター更新、空調更新、外壁塗装、外部防水対策、外構バリアフリー化、トイレ改修、ロビー・事務室の内装改修などです。また、一部備品として、バスケットボールのゴールやバレーボールポール等の更新などです。

進捗としましては、市民体育館の改修工事につきましては、11月より本格的な工事に着手し、現在は体育館内部の床を撤去し、足場を組み立てたうえで、天井撤去、配管配線の撤去の作業をしているところです。また、噴水設備については、図面の黄色の箇所ですが、資材の搬入経路を確保するため、広場を撤去しております。今後、体育館の改修工事に併せて、噴水広場も復旧予定であり、現在イメージ案を作成中です。進捗につきましては、当初令和7年度末を予定しておりましたが、新たな工事を追加することから、令和8年9月を予定しております。

続きまして、八千代総合運動公園庭球場人工芝化等工事についてですが、昭和57年に開場した八千代総合運動公園庭球場のハードコート8面は、市の中心施設としてこれまで多くの方にご利用いただいておりますが、経年劣化によりコート表面のクラックや摩耗など施設の

老朽化が顕著であったことに加え、さらなる利用者の安全性や利便性向上を図るため、施設の利用を休止し、砂入り人工芝コートへ改修する工事を実施しております。

工事の進捗としましては、現在は主に、人工芝を敷設するための舗装の調整及び周囲のフェンスの張り替え作業を実施しており、進捗率としては5～6割程度となっております。新たに人工芝コートとして4月5日から利用（一般利用開始は4月7日から）が可能となるよう工事を進めております。

若松委員長

はい。ありがとうございます。ただいま、施設の改修工事について説明ありました。

よろしいでしょうか。はい。それではですね、説明は全て終了しました。

それでは進行を事務局にお返しします。

清宮主査

本日のご意見につきましては、計画に反映できるよう精査させていただき、その結果を委員の皆様にも後日通知させていただきます。

また、昨日27日より2月26日までの一か月間、広報でも周知しておりますが、市民の皆様にパブリックコメントということで計画に対するご意見をちょうだいしておりますので、委員の皆様につきましても、また何か後日見ていただいたうえでご意見ございましたら、ご連絡いただければと思います。

若松委員長

はい。ありがとうございます。他に何かありますか。

伊藤教育次長

令和7年2月1日をもちまして、委員の皆様の任期が終了となります。これまで委員の

皆様には、本審議会にご尽力いただきましたこと誠に感謝申し上げます。今後ともスポーツ行政へのご理解とご協力をお願いいたします。

若松委員長

はい。それでは事務局にお返しします。

【5 閉会】

司会

ありがとうございました。以上を持ちまして、令和6年度第2回八千代市スポーツ推進審議会を閉会いたします。長時間にわたりましてのご審議，ありがとうございました。

(終 了)